

## 【研究論文】

# 短期大学生に対する英語の授業内多読 —英語を読むことに対する情意面への影響—

松井 千代\*      松井 孝彦\*\*

## 要 旨

多読に関する実証研究はここ数年で数多く行われるようになってきた。しかし、短期大学における授業の一部の時間のみを多読実践に使用し、学生の変容を記録した実証研究はあまり多くない。そこで、本研究では、毎授業 10 分～20 分、計 13 回の多読に取り組んだ短期大学 1 年生の、英語を読むことに対する情意面の変容について調査した。その結果、授業内のわずかな時間の多読であっても、英語を読むことに対する学生の不安感が軽減される様子を確認することができた。また、読書量に従って英語を読むことに対する自信が高まる様子を確認することができた。

キーワード：短期大学生、多読、動機づけ

## I. はじめに

これまでおよそ 4 年間、大学生に対して主に一般教養となる総合的な英語力の獲得を目指す授業を担当してきた。その中で、英語学習に対する動機が高い学生ほど、授業を通して英語力を高めてきたように思われた。

その英語学習に対する動機については、一般的に言われるように、年齢が上がると共に低くなっているのではないだろうか。筆者はこれまでに小学校、中学校、大学で英語教育に携わってきたが、大学生がもつ英語学習への動機の低さを感じた。そのような学生の多くは、これまでの定期試験や入学試験の成績が思わしくなかったため、英語を学習する気にならないと口にしてきた。

そこで、そういった学生たちにも、英語本来の楽しさ、つまり、英語を通して新しい知識を得たり自分の世界観を広げたりする喜びを感じてもらい、英語学習に対する意欲を高めてもらいたいと考え、英語学習に対する動機を高める効果があると言われる多読に取り組ませた。

本研究では、短期大学 1 年生が、半年間英語の多読に取り組んだ際の、英語学習に対する情意面の変化について調査をする。

## II. 多読に関する先行研究及び本稿の目的

一般的に、多読とは本や雑誌、新聞記事等を大量に読む活動を意味する。英語科教育の現場においては、多くの英文を読ませた方がよいと考える指導者が、生徒や学生に対して次々と長文問題集に取り組ませる様子を見ることがあるが、これも一般的には多読活動と行うことができる。また、大学受験学習用の問題集には、過去に入学試験問題として出題された理系・文系の英文を大量に収録した本が英文の多読用図書として販売されている。しかし、第二言語の多読における実証研究では、「学習者の中間言語より易しい教材」を、「母語に訳すことなく」「楽しむために」「大量に読む」ことを多読ととらえている。本研究での多読は後者を指すこととする。

多読の先行研究では、多読を定義するための総読書時間や総読書量は決められていない。しかし、読書量が多いほど効果は顕著に現れており、読書量が少ない場合には効果が現れなかった研究も見られる。

国内、国外の多読の実証研究では、多読の効果として主にリーディング技能、語彙力の向上、動機づけの変化が報告されている (Day & Bamford, 1998; Grabe, 2009)。高瀬 (2010) では、それらに加えてリスニング、ライティング、スピーキングの技能が向上した例や、スペリング力、発音の能力が向上した例を示している。また、1990 年以降の日本人学習者

\*岡崎女子短期大学      \*\*愛知教育大学

に対して行われた多読指導の実証研究についてまとめた佐藤(2006)では、学習者の年齢を問わず、多読は英語力(総合力)、読解力、読解速度を向上させることが報告されている。国内における動機づけや情意面に関する実証研究については、高瀬(2005)が大学生を対象に調査をしており、多読は英語やリーディングに対する情意面に効果があると述べている。また、松井(2008)が中学生を対象に、Takase(2007)と松井(2015)が高校生を対象にそれぞれ調査をしており、多読が英語を読むことに対する不安感を軽減することを報告している。

短期大学における多読の実証研究についてはいくつか報告がなされている。黛(2005)では、医療系短大の2年生後期に、毎回90分間多読を続ける授業を開講し、授業内に加えて授業外でも多読活動に取り組みさせたところ、学生が多読を楽しみながら、意欲をもって授業に取り組むようになったと述べている。竹森他(2011, 2012)では総合文化学科の1・2年生に対して、それぞれ半期間授業内外で多読活動に取り組みさせたところ、取り組みの仕方に改善が必要であるとしながらも、英語力の向上と英語を読むことに対する肯定感が高まったことを報告している。

短期大学における多読の実証研究は近年増えてきているものの、総読書時間が多い実践が多く、授業時間内の一部のみを用いて継続的に多読を行った際の効果について検証された実証研究は少ない。そこで、本研究では、授業内の一部の時間のみで行う継続的な英語の多読が、短期大学保育学科の学生に対してどのような変容を与えるかという点について調査することを目的とする。本年度は、英語を読むことに対する情意面への影響を述べていくこととするが、その際、読書量の違いにより変容が異なるかどうかを調査するために、読書量の多い群と少ない群とを設定し、それぞれの変容について分析をしていくこととする。

### Ⅲ. 実践デザイン

#### 1. 参加者

本研究では、「外国語コミュニケーションⅠ」を受講する本短期大学保育学科1年生を対象とした。授業を受講する89名を多読による読書量(総読語数)順に並べ、読書量の多い学生30名と少ない学生30名を分析の対象とした。ただし、読書量が $M \pm 2SD$ を超える学生及びデータがすべてそろわなかった学生については除外した。高校入学以前に本研究で教材として用いる本を読んだことのある者はいなかった。

読書量が多い群を多量読書群、少ない群を少量読書群と命名した。

#### 2. 使用教材と多読の実践手順

使用教材には、SSS英語学習法研究会による多読用図書の「読みやすさレベル」(YL)を参考にして、YL0.1から3.8までの、Cambridge, HarperTrophy, Macmillan, Oxford, Penguin, Random House, Scholastic, Thomson等の出版社が出版するGR(Graded Reader:英語学習者用の難易度別読み物)やLR(Leveled Reader:母語話者用の難易度別読み物)、そして英語の児童書を、計429冊準備した。それらの本を難易度順に5つのレベルに分け、学生が難易度に応じて本を選びやすいように配置した(表1)。

本はレベル別でかごに収納した。また、本には通し番号を付けた。それぞれの本の表紙には図書用の分類シール(各レベルにより色分けがされたもの)を貼った。分類シールは3段になっており、上から「通し番号」「ジャンル」「その本の総語数」を書いた。

表1: 多読用教材のレベル、ジャンル及び冊数

レベル	レベル分け(SSSのYL)	主なジャンル(SSS書評システム)	冊数
Yellow	0.0 - 0.3	幼児向け, 古典, 動物	82
Green	0.4 - 0.5	幼児向け, 古典, ほのぼの, 動物, フィクション, 自然科学, 喜劇, 実話	82
Blue	0.6 - 0.9	幼児向け, 古典, 人間もの, 推理もの, フィクション犯罪もの, 学園青春物	88
Red	1.0 - 2.2	ほのぼの, 喜劇・風刺, 推理もの, 恋愛, 人間もの, 犯罪もの, 伝記もの	108
Purple	2.0 - 3.8	喜劇・風刺, 推理もの, 恋愛, 人間もの, 犯罪もの, 伝記もの	69

このようにして準備した多読用教材を使用して、以下のような手順で多読を行った。

- ① 休憩時間中に、教員が教材用の本を入れたかごを台車へ乗せ、教室へ運搬する。
- ② 教員は、教室の前面にかごを並べる。
- ③ 教科書の履修が終了した授業後半、教員が多読を行うことを宣言する。
- ④ 学生は、かごから本を一冊選んで座席に戻り、読書を始める。
- ⑤ 学生は、本を読み終えたところで感想用紙に読後の感想を記入し、本を返却する。
- ⑥ ⑤で本を返却した学生は、次に読む本を選び、座席に戻る（以降⑤と⑥の繰り返し）。
- ⑦ 教員が終了の合図を出す。
- ⑧ 学生は感想用紙に必要な事項を記入する。時間内に一冊読み終えられなかった学生には、読んでいた本のページ数を記録させ、続きから読むことができるようにさせる。
- ⑨ 授業終業後、学生は図書を返却する。

### 3. 多読実践期間

多読は、2015年4月初旬から2015年7月中旬までのおよそ3ヶ月間計13回の授業内で行った。各授業内では、教科書の履修を終えた後の、授業の最後の時間を用いて学生は多読用図書を読んだ。多読のための時間は各授業で異なり、それぞれ10分～20分程度であった。総時間数はおよそ180分となった。

### 4. データ収集

多読が学生の英語を読むことに対する情意面にどのように影響を与えるかを調査するために、松井(2015)で使用した「『英語で読むこと』に関するアンケート」を短期大学生に適した質問項目に一部変更し、多読を始める前(4月：第1回目の授業)と多読を終えた後(7月：第14回目の授業における多読実践の後)に、学生に記入させた。これはTakase(2007)のアンケートを参考にして作成しており、第二言語学習や教育心理学の知見を基に、全31項目で構成された5件法のアンケートとなっている(資料1)。

## IV. 結果

### 1. 読書量

多読実践期間でデータのすべてそろった学生が読んだ語数は表2の通りであった。

読書量が $M \pm 2SD$ を超えた学生4名を除外した後、読書量が多かった30名を多量読書群、少なかった30名を少量読書群とした。それぞれの群の学生が読んだ語数は、それぞれ表3、表4の通りであった。

表2：全学生の読語数

最小語数	平均語数	最大語数
808	4,032	11,415
n = 89		
SD = 1975.58		

表3：多量読書群の読語数

最小語数	平均語数	最大語数
4,177	5,216	7,826
n = 30		

表4：少量読書群の読語数

最小語数	平均語数	最大語数
808	2,269	3,213
n = 30		

### 2. 情意面(動機づけ)のアンケート結果

英語で読むことに関するアンケートの31項目について、多量読書群と少量読書群ごとに、多読実践前と多読実践後の結果をまとめた(それぞれ資料2、資料3)。各項目を5件法で答えさせた結果について、「5. あてはまる」に回答が偏った項目( $M+SD > 5$ ：天井効果)は表5のように、「1. あてはまらない」に偏った項目( $M-SD < 1$ ：フロア効果)は表6のように、それぞれなった。

また、多読実践前後の差が大きかった項目について、多量読書群は表7のように、少量読書群は表8のように、それぞれなった。

表 5 : 「5. あてはまる」に回答が偏った項目 (M-SD > 5 : 天井効果)

「5. あてはまる」に偏った項目			
多量4月	多量7月	少量4月	少量7月
23. 英文を読む前に、読んでも分からないのではないかと不安になる。	1. 易しい英語の本を沢山読むことは簡単である。	9. 難しい単語がある英語の本は読みたくない。	6. 易しい英語の本を読むことは楽しい。
24. 易しい英語の本を沢山読むには頑張らなければならない。	4. 英語の本を読んで新しい知識を広げたい。	23. 英文を読む前に、読んでも分からないのではないかと不安になる。	25. もっと英語の本をスラスラ読めるようになりたい。
25. もっと英語の本をスラスラ読めるようになりたい。	6. 易しい英語の本を読むことは楽しい。	24. 易しい英語の本を沢山読むには頑張らなければならない。	
	8. 易しい英語の本を沢山読める自信がある。	25. もっと英語の本をスラスラ読めるようになりたい。	
	12. 易しい英語の本を沢山読むことに苦労はない。		
	14. 英文を読むときは精読よりも多読の方がほうが好きだ。		
	19. 英語の本を読むことはおもしろい。		
	25. もっと英語の本をスラスラ読めるようになりたい。		
	27. 英文を読んでいて、少しくらい内容が分からなくても気にしない。		

表 6 : 「1. あてはまらない」に偏った項目 (M-SD < 1 : フロア効果)

「1. あてはまらない」に偏った項目			
多量4月	多量7月	少量4月	少量7月
2. 読むスピードが速くなるように英語の本を読む(読んでいる)。	29. 周りの友達が英語の本を読んでいるから自分も読んでいる。	2. 読むスピードが速くなるように英語の本を読む(読んでいる)。	26. 英語の新聞や雑誌が読みたいから英語のリーディングを学んでいる。
3. 高校、短大で英語を読む必要があるので英語の本を読む(読んでいる)。		3. 高校、短大で英語を読む必要があるので英語の本を読む(読んでいる)。	
5. 短大入試、就職試験に合格するために英語の本を読むようにしている。		5. 短大入試、就職試験に合格するために英語の本を読むようにしている。	
7. 成績を上げるために英語の本を読む(読んでいる)。		15. インターネットの情報が読めるようになるために英語の本を読む(読んでいる)。	
15. インターネットの情報が読めるようになるために英語の本を読む(読んでいる)。		17. 英語でメール交換ができるようになりたいから、英語の本を読む(読んでいる)。	
17. 英語でメール交換ができるようになりたいから、英語の本を読む(読んでいる)。		26. 英語の新聞や雑誌が読みたいから英語のリーディングを学んでいる。	
26. 英語の新聞や雑誌が読みたいから英語のリーディングを学んでいる。		29. 周りの友達が英語の本を読んでいるから自分も読んでいる。	
28. 短大入試、就職試験の長文に強くなるように英語の本を読む(読んでいる)。			
29. 周りの友達が英語の本を読んでいるから自分も読んでいる。			

表 7：多量読書群における多読実践前後の差が大きかった項目

項目	4月	7月	差
1. 易しい英語の本を沢山読むことは簡単である。	3.24	4.27	1.03
2. 読むスピードが速くなるように英語の本を読む(読んでいる)。	1.83	3.12	1.29
8. 易しい英語の本を沢山読める自信がある。	2.63	3.85	1.22
14. 英文を読むときは精読よりも多読の方がほうが好きだ。	2.78	4.34	1.56
19. 英語の本を読むことはおもしろい。	2.95	4.29	1.34
22. 英語の本を読んでいる最中に邪魔されたくない。	2.83	3.95	1.12
23. 英文を読む前に、読んでも分からないのではないかと不安になる。	3.98	2.88	-1.10

表 8：少量読書群における多読実践前後の差が大きかった項目

項目	4月	7月	差
1. 易しい英語の本を沢山読むことは簡単である。	2.70	3.91	1.21
2. 読むスピードが速くなるように英語の本を読む(読んでいる)。	1.55	3.14	1.59
6. 易しい英語の本を読むことは楽しい。	3.07	4.27	1.20
8. 易しい英語の本を沢山読める自信がある。	2.07	3.25	1.18
12. 易しい英語の本を沢山読むことに苦労はない。	2.59	3.82	1.23
19. 英語の本を読むことはおもしろい。	2.50	3.68	1.18
24. 易しい英語の本を沢山読むには頑張らなければならない。	4.36	3.27	-1.09

## V. 考察及び今後の課題

アンケート結果を基に、読書量の違いに注目をして多読の影響を考察し、課題を見出していくこととする。まず、読書量が異なっても共通して見られる影響と、読書量によって異なる影響を明らかにする。

### 1. 共通してみられる影響：不安感の軽減

表 5 を見ると、多読実践前の 4 月には、多量読書群も少量読書群も「英文を読む前に、読んでも分からないのではないかと不安になる」(項目 23)、「易しい英語の本をたくさん読むには頑張らなければならない」(項目 24)と強く思っている。しかし、多読実施後の 7 月には、両項目とも「5.あてはまる」には見られない。資料 2 及び資料 3 を見ると、やはり両項目とも下がっていることを確認することができる。また、表 7 からは多量読書群では項目 23 が、表 8 からは少量読書群では項目 24 が、それぞれ大きく変化をしている。

以上の点から、英語を読んでも分かるかどうか、分かるためには相当頑張らなければならないと思っていた学生の不安感を、多読が軽減させることができたのではないかと考える。

### 2. 共通して見られる影響：英語に対する意識の変化

表 6 を見ると、多読実践前の 4 月には、多量読書群では 9 の項目が、少量読書群では 7 つの項目が、それぞれあてはまらないとなっている。これらは、その要因から三つのグループにまとめることができると考える。

一つ目は「達成目標」である。これは、項目 2「読むスピードが速くなるように英語の本を読む(読んでいる)」が該当すると考える。二つ目は「入試及び義務的な外的動機づけ」である。これは、項目 3「高校、短大で英語を読む必要があるので英語の本を読む(読んでいる)」、項目 5「短大入試、就職試験に合格するために英語の本を読むようにしている」、項目 7「成績を上げるために英語の本を読む(読んでいる)」項目 28「短大入試、就職試験の長文に強くなるように英語の本を読む(読んでいる)」(項目 7 及び 28 は多量読書群のみ)、項目 29「周りの友達が英語の本を読んでいるから自分も読んでいる」が該当すると考える。三つ目は「道具的・実用的価値観」である。これは、項目 15「インターネットの情報が読めるようになるために英語の本を読む(読んでいる)」、項目 17「英語でメール交換が出来るようになりたいから、英語の本を読む(読んでいる)」、項目 26「英語の新聞や雑誌が読みたいから英語のリー

ディングを学んでいる」が該当すると考える。入試を終えて英語学習に一つの区切りがついたと考える短期大学1年生には、英語を読むことに対する目的や目標を見出すことができず、英語が苦手なことから英語を活用する方法を思いつづことができないのではないかとと思われる。

しかし、多読実践後の7月には、これら三つのグループが、その一部を残し全て「1.あてはまらない」からなくなっている。この結果は、高校1年生を対象とした研究である松井(2015)の、多読未実施群では上記三つのグループが「あてはまらない」に見られるものの、多読実施群では「あてはまらない」に該当する項目がなかったという結果と符合する。また、多読を行うことで「易しい英語の本を読むことは楽しい」(項目6)と強く思うようになるという点も、表5及び松井(2015)から共通して見られる。

以上の点から、多読を通して英語を読むことが楽しく感じられるようになることで、目標を持たせたり、英語は何かの役に立つという思いを抱かせたりすることができるのではないかと考える。

### 3. 異なる影響：自信や意欲の高まりの度合い

表5を見ると、多読実践後の7月における「5.あてはまる」に該当する項目数が、多量読書群と少量読書群では異なることが分かる。

多量読書群では、項目1「易しい英語の本をたくさん読むことは簡単である」、項目6「易しい英語の本を読むことは楽しい」、項目8「易しい英語の本を沢山読む自信がある」、項目12「易しい英語の本を沢山読むことに苦労はない」の四つの項目から、易しい英語を読むことに対する肯定感や自信が高まったのみならず、項目19「英語の本を読むことはおもしろい」、項目27「英文を読んでいて、少しくらい内容が分からなくても気にしない」という二つの項目から、易しい英語の本でなくとも英語を読むことに抵抗感が少なくなり、楽しむことができるようになった学生の姿を認めることができる。また、項目4「英語の本を読んで新しい知識を広げたい」が見られることから、英語を通して学ぼうとする意欲が高まった様子も見られる。

表5からは、少量読書群に対して多読の影響がないように思われる。しかし、表8に注目すると、多量読書群で「5.あてはまる」に偏った項目である項目1、項目8、項目12、項目19が、それぞれ大きく伸びていることが分かる。

以上の点から、多読を通して読書量が多くなるに

従って、英語を読むことに対する自信や意欲が徐々に高まっていくのではないかと考える。

### 4. まとめと今後の課題

表5から、多読を行う前に「難しい単語がある英語の本は読みたくない」(項目9)という思いを持っていると読書量が少なくなる傾向があると考えられる。しかし、読書量が増えるに従い、不安感が軽減し、英語が理解できるようになることで英語が役に立つという実感が湧き、英語を読むことに楽しみを感じたり自信や学習意欲が高まったりしてくるのではないかと考える。本研究では、短期大学の授業の一部のみで多読を行った場合の変容を調査したが、授業時間全てで多読を行わなくとも、また授業外の時間を多読に費やさなくとも、情意面に関しては変容が見られることが確認できた。今後の課題としては、より長い期間、例えば通年で多読実践を行うことで、授業時間内の多読のみでも少量読書群に自信を持たせることができるかどうかを調査する必要があると考える。

## VI. おわりに

英語学習に対する動機を高めたいと考え、前期の間多読実践に取り組んできた。本研究では、これまでに分析したように、その目的はある程度達成できたのではないかと考える。後期も多読を継続しているが、今後も読もうとする意欲を高めるために適切な支援をしていきたい。

これまでの経験上、英語学習に対する動機が高い学生ほど、授業を通して英語力が高くなったように感じていた。短期大学生に対しても多読が動機を高めることができたと言えるならば、多読が短期大学生の英語力を高めることができるかどうかについても研究をしていきたい。

### 引用文献

- Day, R.R. & Bamford, J. (1998). *Extensive reading in the second language classroom*. Cambridge University Press.
- Grabe, W. (2009). *Reading in a second language: Moving from theory to practice*. Cambridge University Press.
- 松井孝彦、「中学校における10分間読みの効果—読解力と動機づけの観点から」、『中部地区英語教育学会紀要』第38号、2008年、pp.15-22

- ・松井孝彦、「附属高校における 10 分間読み —読解力と動機づけの観点からの考察—」、『愛知教育大学附属高校研究紀要』42、2015 年、pp.103-111
- ・黛道子、「英語多読授業の導入と成果—短期大学における 2 年間の実践より—」、『順天堂大学医療看護学部医療看護研究』第 1 巻、2005 年、pp.22-28
- ・佐藤和代、「速読練習を取り入れた『多読』授業の効果」、『STEP BULLETIN』第 18 号、2006 年、pp.92-109
- ・高瀬敦子、「大学生の効果的多読指導法—易しい多読用教材と授業内読書の効果—」、『関西大学外国語教育フォーラム』第 6 号、2005 年、pp.1-13
- ・Takase, A. (2007). Japanese high school students' motivation for extensive L2 reading. *Reading in a Foreign Language*, 19, (1), pp.1-18.
- ・高瀬敦子、『英語多読・多聴指導マニュアル』、大修館書店、2010 年
- ・竹森徹士・小玉容子・ラングクリス、「多読教育の成果と展開—2009 年度、2010 年度の多読教育から—」、『島根県立大学短期大学部松江キャンパス研究紀要』Vol. 49、2011 年、pp.17-28
- ・竹森徹士・小玉容子・ラングクリス、「多読教育の発展的試み」、『島根県立大学短期大学部松江キャンパス研究紀要』Vol. 50、2012 年、pp.9-18

資料 1：『英語で読むこと』に関するアンケート

**「英語で読むこと」に関するアンケート**

組 番 氏名 \_\_\_\_\_

この調査票では皆さんの「英語で読むこと」について尋ねています。自分が英語を読んでいる時を思い出して下さい。それぞれの質問項目について、自分の考え、感じ方にあてはまる度合いを、下の尺度に従って、1～5の番号で示してください。

1 あてはまらない    2 あまりあてはまらない    3 どちらともいえない    4 ややあてはまる    5 あてはまる

|-----|-----|-----|-----|

1. 易しい英語の本を沢山読むことは簡単である。	1 _____
2. 読むスピードが速くなるように英語の本を読む（読んでいる）。	2 _____
3. 高校、短大で英語を読む必要があるので英語の本を読む（読んでいる）。	3 _____
4. 英語の本を読んで新しい知識を広げたい。	4 _____
5. 短大入試、就職試験に合格するために英語の本を読むようにしている。	5 _____
6. 易しい英語の本を読むことは楽しい。	6 _____
7. 成績を上げるために英語の本を読む（読んでいる）。	7 _____
8. 易しい英語の本を沢山読める自信がある。	8 _____
9. 難しい単語がある英語の本は読みたくない。	9 _____
10. 友達の感想を聞いて英語の本を（更に）読もうと思った。	10 _____
11. もっと教養を身につけるために英語の本を読む（読んでいる）。	11 _____
12. 易しい英語の本を沢山読むことに苦労はない。	12 _____
13. 将来良い仕事につくことができるように、英語の本を読む（読んでいる）。	13 _____
14. 英文を読むときは精読よりも多読の方がほうが好きだ。	14 _____
15. インターネットの情報が読めるようになるために英語の本を読む（読んでいる）。	15 _____
16. 授業での課題だから英語の本を読む（読んでいる）。	16 _____
17. 英語でメール交換ができるようになりたいから、英語の本を読む（読んでいる）。	17 _____
18. 知らない単語が出てくると、すぐに辞書を引きたくなる。	18 _____
19. 英語の本を読むことはおもしろい。	19 _____
20. 英語の本を読むと英文学を理解でき、その良さがよく分かるようになる。	20 _____
21. 英語の本を読んで視野を広げたい。	21 _____
22. 英語の本を読んでいる最中に邪魔されたくない。	22 _____
23. 英文を読む前に、読んでも分からないのではないかと不安になる。	23 _____
24. 易しい英語の本を沢山読むには頑張らなければならない。	24 _____
25. もっと英語の本をスラスラ読めるようになりたい。	25 _____
26. 英語の新聞や雑誌が読みたいから英語のリーディングを学んでいる。	26 _____
27. 英文を読んで、少くとも内容が分からなくても気にしない。	27 _____
28. 短大入試、就職試験の長文に強くなるように英語の本を読む（読んでいる）。	28 _____
29. 周りの友達が英語の本を読んでいるから自分も読んでいる。	29 _____
30. 英語の本を読んで、英語圏の文化や習慣についてもっと知りたい。	30 _____
31. 英語の勉強の中ではリーディングが好きだ。	31 _____

資料 2 : 多量読書群のアンケート結果

項目	多読実施前 (4月)		多読実施後 (7月)	
	平均 (M)	標準偏差 (SD)	平均 (M)	標準偏差 (SD)
1	2.73	1.08	3.97	0.93
2	1.63	0.89	2.97	1.13
3	1.83	0.91	2.33	1.09
4	3.50	1.14	3.70	1.09
5	1.63	0.76	2.17	0.87
6	3.17	1.37	4.30	0.92
7	2.20	1.16	2.23	0.86
8	2.23	1.07	3.37	0.96
9	3.87	1.14	3.77	0.90
10	2.23	1.07	2.53	1.01
11	2.47	1.22	2.77	1.14
12	2.53	1.20	3.83	0.95
13	2.43	1.19	2.07	0.83
14	2.87	1.25	3.67	1.15
15	1.80	1.03	1.90	0.84
16	3.70	0.99	3.27	1.01
17	2.03	1.10	1.80	0.61
18	3.63	1.22	3.53	1.11
19	2.70	1.09	3.60	0.89
20	2.43	0.94	3.03	1.03
21	3.50	1.11	3.83	0.87
22	3.13	1.14	3.37	1.13
23	3.97	1.10	3.50	1.14
24	4.33	0.76	3.27	1.05
25	4.43	0.73	4.40	0.72
26	1.70	0.84	1.67	0.71
27	3.20	1.24	3.53	1.01
28	2.27	1.05	2.30	1.09
29	1.43	0.77	1.93	0.74
30	3.53	1.31	3.17	0.99
31	2.83	1.42	3.13	1.04

資料 3 : 少量読書群のアンケート結果

項目	多読実施前 (4月)		多読実施後 (7月)	
	平均 (M)	標準偏差 (SD)	平均 (M)	標準偏差 (SD)
1	3.40	1.07	4.37	0.76
2	1.97	1.22	3.27	0.98
3	2.07	1.14	3.03	1.16
4	3.63	0.96	4.07	0.94
5	2.10	1.18	2.30	0.92
6	3.73	1.01	4.33	0.96
7	2.17	1.18	2.50	1.01
8	2.77	1.07	3.97	1.07
9	3.33	1.24	3.30	1.37
10	2.33	0.96	3.20	1.10
11	2.60	1.22	3.13	1.20
12	3.33	1.12	4.27	0.91
13	2.13	1.14	2.67	1.24
14	2.80	1.19	4.40	0.93
15	1.67	0.76	2.30	0.92
16	3.27	1.11	2.77	1.01
17	2.00	1.14	2.43	1.14
18	3.67	1.32	3.27	1.36
19	3.07	1.14	4.33	0.71
20	2.77	1.17	3.57	1.04
21	3.47	1.17	4.07	0.87
22	2.80	1.21	3.83	1.05
23	4.07	1.17	2.87	1.38
24	3.83	1.29	3.00	1.31
25	4.57	0.63	4.70	0.53
26	1.90	0.96	2.17	1.15
27	3.43	1.36	4.10	1.03
28	2.17	1.18	2.33	1.09
29	1.40	0.62	1.87	0.94
30	2.93	1.28	3.47	1.33
31	3.00	1.46	3.60	1.25